

令和7年度 草の根事業育成財団活動報告

「檜原たねとつち」



団体事業内容

（目的） 檜原たねとつちは、子どもが安心して育ち、自分らしく生きていけるよう、遊びの場・食の場・学びの場を企画・運営し、育みます。また、子どもの居場所づくりを通して、地域のつながりと互いを大切にする文化を育て、一人ひとりがあるのままでいられる地域を目指しています。

（事業内容）

1. 子どもが自由に遊び、安心してすごせる場
（檜原あそぼう会など）の開催。
2. 地域の子どもや家族が食事をともにできる場
（だれでも食堂など）の開催。
3. 「遊びの必要性」「居場所」について共に感じ学び、
考え方が地域に広がる取組。

第十二回 檜原あそぼう会

遊ぶことは、生きること！
やまっこかわっこであそぼう

おとなも子どもも
みんなあそぼう！！

みんなで焼き芋
食べよう！！

焚き火をするよ！
焼きたいものがあれば、
持ってきてね！

お部屋でのんびり遊べる
ボードゲームやトランプも
用意するよ！！

好きな時間に来てね！

2026.3.31
10:30~15:00

場所 里山保育やまっこかわっこ 檜原村小沢地区
持ち物 うどんに入れたい具材、水筒、遊びに必要なもの
見守りスタッフ大募集！
送迎が必要な方は主催者までおしらせください。
このイベントは、社協の行事保険に加入しております。
お車でお越しの方は、お知らせください！
主催・連絡先 檜原たねとつち（小栗）
電話 080-6511-0618
この活動は里の育成財団の助成事業として
一部助成金を活用して実施しております。

だれでも食堂同時開催！！
煮込みうどんを食べましょう。
参加費無料！
活動の軌跡の為、
カンパ箱を設置しております。

後援 檜原村



◆ 捉えている「問題」「地域課題」

- ・ 檜原村では過疎化と高齢化が進み、子どもたちが安心して過ごせる「居場所」が不足しています。本事業では、自然の中で自由に遊べる環境を整えることで、子どもたちの主体性と地域とのつながりを育み、異世代交流によるコミュニティ再生を目指します。
- ・ 子どもの権利を尊重し、保育・教育・福祉が連携する持続的な仕組みづくりを進めます。

◆ 地域課題に向けての取り組み

自然豊かな檜原村を舞台に、季節や地域資源を活かした子どもの遊び場・居場所づくりを実施します。活動には、地域の経験豊富な高齢者や多様な世代が関わり、世代間交流や地域の知恵の継承を大切にします。また、必要に応じて保育・教育・福祉・心理カウンセラー等の地域の専門家にも協力を求めながら、安全であたたかい場づくりを進めます。



令和7年度事業会計報告

(支出)	予算	決算	(収入)	金額
人件費(スタッフ、講師謝礼)	660,000円	621,000円	参加費	39,500円
消耗品	350,000円	212,670円	食堂収入	15,000円
広告宣伝費	100,000円	0円	カンパ	7,793円
通信運搬費	1,200円	1,200円	寄付	375,827円
会場費	30,000円	21,000円	自己資金	20円
委託費	60,000円	60,000円		
保険料	39,600円	6,270円		
対象外経費	0円	0円		
			助成金額 474,000円	
合計	1240,800円	912,140円		



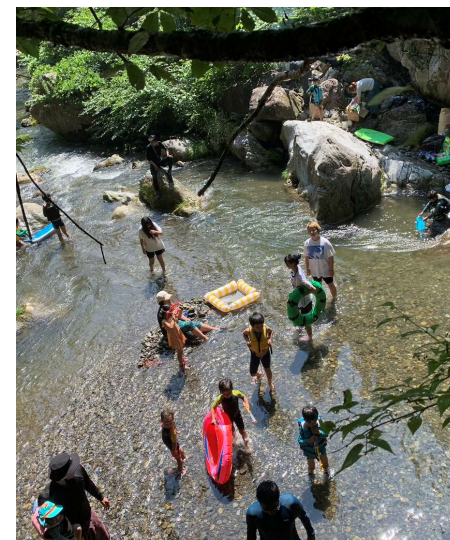
令和7年度事業概要

「こどもの居場所づくりを通じた
豊かな地域コミュニティづくり」



【遊ぼう会】

年間7回開催。子どもから大人まで誰もが自由に参加できる遊びの場として定期開催しました。村内の公共施設や小学校、自然豊かな環境を利用し遊びや異年齢交流を中心に、毎回地域住民が気軽に立ち寄れる場づくりを意識して実施しました。参加者からは「長い休み時間みたいで、楽しかった」「多世代で遊んだり、過ごすことができて、よかった」「初めて会う人とも気軽に話げできた」などという感想をいただきました。



【だれでも食堂】

年間9回開催。（うち7回は他イベントと同日開催）食を囲んで地域住民がつながる場として開催しました。遊ぼう会等との同日開催日も設け、遊びと食事を一体的に提供することにより、子育て世帯を中心に幅広い年代の参加者が集まりました。また単独での開催時は、学校給食がない日に行うなどの工夫により、多くの方が募る機会となりました。また行政への働きかけにより、担当者が見学に来てくださり、行政職員への理解も深まりました。



【大人の学びの会】

年間4回開催。活動の担い手の意識醸成や、地域全体で子どもを育てる視点を共有するきっかけとなるように、座談会や大人向けのクラフトワークショップを行いました。遊びの大切さや子どもの育ちについてを題材したことで、当事者意識をもって活発な意見交換がおこなわれました。またワークショップでは楽しみながら子どもの育ちや地域課題について、一緒に考える場となりました。





座談会

遊びが育む心と身体

～子どもが安心して育つ、地域のカチを目指して！～



子どもの「遊び」と「育ち」を軸に、大人や地域の関わり方を一緒に考えます。
「遊びってなんだろう?」「子どもにとって安心できる居場所って?」
そんな問いを、実践者や地域の大人と語り合う場です。
温かい軽食やキッズスペースを用意しています。お気軽にご参加ください。

【日時】
1月30日（金）
18:00～ 準備しながら交流
18:45～ 座談会開始
（※途中参加・途中退出OK）
21:20 終了

【参加費】
500円（資料・軽食込み）
※子どもの遊びスペースあり
※子ども参加費無料
【対象】子どもの育ち・遊びに関心のある方
地域づくりに関心のある方、子どもと地域の関係について考えてみたい方、
保護者・地域の大人・どなたでも歓迎

【会場】 フレア五日市
東京都あきる野市館谷台26番地1
※武蔵五日市駅すぐそば
※コインパーキングあり

【申し込み方法】
二次元コード
または、主催者へ連絡
当日参加も大歓迎！
※軽食や資料数に限りがありますので、
事前にお申込みいただけますと幸いです！

講師
一般社団法人 八王子冒険遊び場の会
足立 純一 氏（あだち）
NPO法人 おちかわの里（日野）
伊藤 完 氏（たもつ）

公財財団法人
草の根事業育成財団

西多摩プレーパーク連絡会は、子どもが自然の中で自由に遊べる「プレーパーク（冒険遊び場）」の活動を、西多摩地域でつなぎ・支える団体のネットワークです。

この事業は草の根育成財団の助成を一部受けて、実施しております。

主催：植原たねとつち
080-6511-0618（小柴）
協力：西多摩プレーパーク連絡会







【地域 みんなが参加できるワークショップ】

広域のネットワークを活かした企画として、NPO子ども劇場西多摩と連携し共催で実施しました。コマのパフォーマンスと昔遊び体験を組み合わせた内容で、100名以上が参加しました。村内外の子どもや家族、高齢者が集まり、大人も子どもも世代を超えて、昔遊びを楽しみました。息をのむパフォーマンスでは、成功するたびに歓声が上がり、会場は一体感に包まれました。西多摩新聞にも取り上げていただき、広く活動を知っていただくきっかけにつながりました。



◆ 助成事業の実際と成果

成果

- 2年間の地道な活動により、2026年度より子ども食堂に関わる予算が村の行政予算として計上されることになりました。自主財源や民間の助成金に頼ることなく継続的に事業を行う可能性が広がり、活動の安定的な基盤づくりに向けて大きな前進となりました。
- 参加者が固定化せず毎回新たな顔が加わることで、地域住民同士の「顔の見える関係」が少しずつ広がっています。子育て中の保護者が地域の大人と自然な形でつながる機会となり、孤立感の軽減につながっています。また、子どもたちが異年齢・異世代の大人と関わる場の提供により、地域全体で子どもを見守るきっかけとなっています。
- 食を共にする場が情報交換・相談の場としても機能し、公的支援につながりにくい潜在的なニーズの「聞き取り」の場になっています。
- イベントの開催と並行して、近隣市町村のプレーパークや子ども食堂の視察を積極的に行い、そこで得た知見をもとに行政に対して継続的な働きかけを行いました。活動報告書を作成して広くチラシを配布するとともに、村の広報誌にも掲載いただいたことで、村民への認知が広がり始めています。



◆ 今後の取り組みとこれからの展望・課題

新たな課題

- 継続的な運営には担い手の固定化・疲弊という問題があり、住民が「スタッフ」ではなく「参加者」として関われる仕組みの工夫が必要と考えています。
- 食材調達・会場設営などの実務的な負担が特定の個人に集中しています。また、参加者の多くは、すでに一定のつながりを持つ層であり、最も孤立しやすい世帯（転入者、障害のある家族を抱える世帯など）への届き方がまだ不十分です。

今後の取り組み

- 会則の見直しを行い、より多くの人に関われるシステムを整備し、風通しの良い団体になることを目指したいです。運営への参加を段階的に広げ、「来る人」が自然に「担い手」へと移行できるような場づくりを意識していきたいです。
- 地域住民が「支援される側」でも「支援する側」でもなく、共に場をつくる主体となれるよう、運営の構造そのものを問い直していきたいです。
- 孤立しやすい層へのアウトリーチを強化するため、ロコミ・チラシ配布に加え、村内の既存ネットワークとの連携を深めていきます。



草の根事業育成財団の皆さまには、
本活動への温かいご支援とご助成をいただき、
心より感謝申し上げます。

いただいたご支援が、
檜原村での子どもと地域をつなぐ場づくりの
大きな力となりました。

来年度からは村の行政予算による継続が決まり、
この活動をさらに根付かせていくことができます。
引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

